

地域間幹線系統確保維持事業

# 一次評価資料

令和 8 年 1 月

飯能市地域公共交通対策協議会

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 飯能市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者:国際興業株式会社 系統:飯03-2系統(主系統) 飯能駅～名郷	運行区間: [起点]飯能駅 [主な経由地]名栗車庫 [終点]名郷	目標達成継続に向けて飯能市と協調し、地域住民や観光客を取り込めるよう生産性向上の施策を中心に取り組みを行った。本年度も継続的に実施している高齢者定期的販売促進、名栗ふるさとまつり、ノーラ名栗でのイベント開催における増客施策を実施した。	A 生産性向上の各施策は予定通り実施された。	A 輸送人員について、事業対象期間(令和7年度)の目標246,471人に対し実績272,377人であり、目標・前年とも上回った。(目標比+26千人、前年度比+16千人) 増客の要因としては、コロナ禍からの需要の戻りが継続し、観光客・イベント客の利用が増加していることが挙げられる。 収入も前年を上回ったが、費用増により収支率は▲2.6%低下となった。	生産性向上の施策を中心に沿線自治体である飯能市と連携をして取り組みを行い収支率の向上を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月30日

協議会名：	飯能市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>路線バスは住民の日常生活を支える最も身近な公共交通機関であり、高齢化の進展や環境問題への対応が急がれる中で、その役割はますます大きくなっている。</p> <p>また、中心市街地から離れた住宅地や農山村地域に暮らす、車を運転できない高齢者や学生などにとって、バスは生活に必要不可欠な交通手段である。</p> <p>そのため、地域公共交通の存続が危ぶまれている地域において、生活交通路線として必要なバス路線の運行の維持確保を図る必要がある。</p>

# 令和7年度 飯能市における地域公共交通確保維持改善事業

陸上交通  
地域間幹線系統

## 協議会名・補助対象事業者名

飯能市地域公共交通対策協議会  
国際興業株式会社

## 系統名

飯03-2系統 飯能駅～名郷 線

## 事業の目的・必要性

路線バスは、住民の日常生活を支える最も身近な公共交通機関であり、高齢化の進展や環境問題への対応が急がれる中で、その役割はますます大きくなっている。また、中心市街地から離れた住宅地や農山村地域に暮らす、車を運転できない高齢者の方などにとって、バスは必要不可欠な交通手段である。そのため、地域公共交通の存続が危ぶまれている地域において、生活交通路線として必要なバス路線の運行の維持確保を図る必要がある。

## 事業の概要・目標・効果

### ●路線名

飯能駅・名郷

### ●運行区間

起点：飯能駅 主な経由地：名栗車庫 終点：名郷

### ●系統キロ

往路26.8km 復路26.8km(飯03-2系統他、補助対象計4系統)

### ●運行回数

14.1回

### ●目標・効果

生活交通として必要なバス路線を維持することによって、県民の最も身近な公共交通機関として重要な役割を担う乗合バスの充実を図る。当該事業の活用により、1系統のバス路線が維持確保されることとなり、補助対象期間中、延べ246,471人(輸送人員ベース)の県民の移動手段の確保が見込まれる。

### ●利用促進・生産性向上の取り組み

①彩京のびのびバスPR強化による発売増②バス座席満杯作戦(名栗ふるさとまつり、ノーラ名栗でのイベント開催)の取り組みによる1%以上収支改善

### ●直近3ヶ年の推移

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
輸送人員(人)	246,471	256,345	272,377
経常収支(千円)	▲103,474千円	▲100,730千円	▲118,463千円
収支率(%)	45.0%	46.6%	44.0%
平均乗車密度(人)	7.2	7.3	7.6
補助金額(千円)	6,184	32,198	34,609

## 目標・効果の達成状況

### 【達成状況】

輸送人員の目標246,471人に対して実績は272,377人となり、25,906人の増。  
※収入も前年を上回ったが、費用増により収支率は▲2.6%低下となった。

### 【目標を達成できた要因(分析)】

コロナ禍からの需要の戻りが継続していること、名栗地区のイベント等が催行され、イベント客や観光客の動きが活発化していることが要因。

## 今後の改善点

生産性向上の施策を中心に沿線自治体である飯能市と連携をして取り組みを行い収支率の向上を図る。

# 事業実施区域

